

令和5年度 第3回 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 議事録	
日 時	令和6年3月27日（水）18時30分～20時30分
開催場所	横浜市役所 みなと4/オンライン開催
出席者	第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会委員 9人（資料1）
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴者無し）
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 第3期健康横浜21の策定状況について</p> <p>(2) 「今後検討」としていた第3期健康横浜21の目標値の検討</p> <p>(3) 第3期健康横浜21の評価基準の考え方について</p> <p>(4) よこはま健康アクション[R6-R11]について</p> <p>4 本部会の終了にあたって</p>
議 事	<p>【議事1】第3期健康横浜21の策定状況について</p> <p>〈資料3〉</p> <p>事務局から資料について説明</p>
	<p>(水谷部会長)</p> <p>事務局の説明に対して質問等はあるか。</p> <p>(一同)</p> <p>なし。</p>
	<p>【議事2】「今後検討」としていた第3期健康横浜21の目標値の検討</p> <p>〈資料4〉</p> <p>事務局から資料について説明</p>
	<p>(水谷部会長)</p> <p>事務局の説明に対して質問等はあるか。</p> <p>(瀬戸委員)</p> <p>腰痛に関する指標について。60.2%という発言があったが、それは何に関する数字だったか。</p> <p>(事務局)</p> <p>「あなたはこの1か月間ほとんどの日において、体の部分に痛みを経験しましたか」という問いの次に、その痛みの部位を聞く形式で調査をしている。</p> <p>「痛みを経験したか」に対して、「はい」と回答した人のうち、その痛みの部位が腰であると回答した方が60.2%だった。</p> <p>最初の方に痛みがあると回答した人と痛みがないと回答した人の合計数を母数とし、痛みの部位を「腰」と回答した人の割合を指標の割合としており、それが資料に書いてある28.2%という数値になる。</p>

(赤松委員)

指標ナンバー38と39について。

目標値が30または15に対し、直近値が各々30.4と15.4であり、すでに、目標値に近い値である。国と同じ目標値ということで、これらの目標値を設定したという説明であったが、横浜市の現状を考えると、目標値が低すぎないか。

(事務局)

身長と体重は今回実施した健康に関する市民意識調査で初めて調査項目としたものであり、この結果のみをもって目標値を変更するほどの信頼度はないと考えた。今後も中間評価に向けて調査を実施し、必要時見直しの可能性はあるが、現段階の目標値は国と同等のままとしたい。

(水谷部会長)

回収率30%とのことであったが、回答者の年代内訳は横浜市の年代分布と近いものとなっているのか。

(事務局)

これまでの調査では、回答者の年代内訳が横浜市の年代分布と近いものとなるよう、各年代のモニターに向けた調査を実施していたが、今回は20歳から69歳までの横浜市民の中から2万人に調査票を郵送しており、回答者の年代分布が適切なものとなるような調整はしていない。

そのため、横浜市の年代分布と比較し、高齢者に偏った回答者割合となっている。

(水谷部会長)

国で実施する調査も同様の方法をとっている。今後人口構成が変わったり、インターネットを活用できる年代層が増えたりすることにより、回答者における年代分布には変化が出る可能性がある。

指標は分かりやすいものを設定しているため、次回目標値を設定する時には、そのままこの指標を使うのか、そうでないのか、目標値を変更するのか否か考えていくとよいと感じた。

(後藤委員)

3点意見がある。

1点目、今回の資料において、市民意識調査が令和2年度の結果を使用しているものと、令和5年度のものを使用しているものがあるが、ベースライン値としてどちらかに揃えた方が良いのではないか。

2点目、回答者の年代内訳がどうしても若年層が低い。国民生活基礎調査等でも補正值を使用しているが、本調査においてもそのようなことは検討されないのか。

3点目、サンプリングバイアスもある可能性があるが、睡眠の目標を達成している人がかなり多い。こんなに多いのか、と驚いた。目標値は現状維持でも良いと思うが、キリの良い数字にしても良いのではないか。

(事務局)

1点目について。計画の評価に用いるベースライン値は、令和6年度時点の最新

	<p>値を用いることにしている。令和2年度の市民意識調査の値を用いて目標値の算出を行った指標についても、ベースライン値は令和5年度の市民意識調査の確定値を用いる考え。その影響で、ベースライン値が目標値をすでに上回っているものが出てくる可能性はあるが、中間評価時に目標値の上方修正の必要性を検討したい。</p> <p>2点目について。年齢の補正、ウェイトバックを実施するかについては、以前より後藤委員含め検討してきたが、これまでも同様の状態はあったものの実施していないこと、扱いが複雑になることから、補正はせずに行きたいと考えている。評価の際には、横浜市の実際の年齢構成と調査回答者の年齢構成の差異の有無についても考慮してみたい。</p> <p>3点目について</p> <p>睡眠時間に関する結果が想像以上に良かったことについては、こちらでも認識しており、生データを当たるなどしたが、今のところ間違いは見つかっていないので、この値の維持を目指す目標値の案で進めていきたい。</p> <p>(水谷部会長)</p> <p>睡眠時間に関しては、1時間刻みなど、もう少し細分化して分析してみると違う見方が出てくるように思う。6時間と7時間の差がどれくらいあるか調べても良いかもしれない。</p>
	<p>【議事3】第3期健康横浜21の評価基準の考え方について (資料5) 事務局から資料について説明</p>
	<p>(水谷部会長)</p> <p>事務局の説明に対して質問等はあるか。</p> <p>(一同)</p> <p>なし。</p>
	<p>【議事4】よこはま健康アクション [R6-R11] について (資料6) 事務局から資料について説明</p>
	<p>(水谷部会長)</p> <p>事務局の説明に対して質問等はあるか。</p> <p>(後藤委員)</p> <p>取組を実施した後の評価方法についてもあわせて考えておけると良い。第3期計画の指標で評価できるようになっているのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>令和6年度にそれぞれアウトプット、アウトカムを設定して評価計画をたてる。引き続き、お力添えいただきたい。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>推進会議では各関係団体に対して、特にこの取組に力を入れて欲しいなどの話はあるのか。</p>

	<p>(事務局)</p> <p>4月に予定している推進会議で、各関係団体においてどのように取組を実施していくのか整理したいと考えている。取組の推進については、毎年度共有し、積み重ねていきたい。</p> <p>(水谷部会長)</p> <p>全体的を通して御意見があるか。</p> <p>(一同)</p> <p>なし。</p> <p>(水谷部会長)</p> <p>進行を事務局に返す。</p>
閉会	<p>【その他】本部会の終了にあたって</p> <p>閉会</p> <p>(事務局)</p> <p>令和3年7月に発足し、3年近くに渡り行ってきた本部会も最終回となった。第2期健康横浜21最終評価、第3期健康横浜21の策定にあたり多大なるお力添えをいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。</p> <p>最後に「4 本部会の終了にあたって」として、皆様より一言ずつお言葉をいただきたい。名簿順にお願いして、最後に水谷部会長でお願いする。</p> <p>赤松委員お願いします。</p> <p>厚生労働省から食環境づくりの専門家を紹介してほしいとお願いしたところ、赤松委員を御紹介いただいたのが御縁の始まりだった。食環境づくりの検討会の方でも大変にお世話になった。</p> <p>(赤松委員)</p> <p>事務局の準備がしっかりされており、仕事がしやすかった。</p> <p>リーフレットを見て考えたことだが、計画を策定したので、次は市民への周知に力を入れなければならない。健康横浜21のアイコンやキャッチフレーズとかは作成していたか。次の段階はそのようなプロモーションが重要。</p> <p>また、市民だけでなく、企業にも告知していく必要がある。厚生労働省の食環境戦略イニシアチブにも委員として参加して感じているが、企業連携した取組は重要。たとえば、アクションリーフレットにある、デジタル技術等の更なる活用のアクション7「健康状態の見える化と行動変容の促進」等も、IT企業に参入してもらえると大きく進むはず。</p> <p>企業にとってもプラスになるように連携できると、結果的に市民への周知もうまく行くのではないかと。12年と長い計画だが、頑張りたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>後藤委員お願いします。後藤委員には、本市の健康課題の分析に当たり、多大な御協力をいただいた。これまで健康づくりについて横浜市立大学と共に取り組んだことはなかったが、連携が進み、様々な取組を御一緒させていただいた。</p>

(後藤委員)

2021年の7月から参加している。その頃から、所属する大学内でもいろいろな動きがあり、激動の3年間だった。

このように多くの先生と協働させていただき、非常に貴重な経験をさせていただいた。これからもつながりを持って協力していただきたい。それが横浜市だけでなく日本全体の健康につながると思っている。

(事務局)

瀬戸委員お願いします。瀬戸委員には、薬草を探索しながら歩く健康ウォーキングの開催や禁煙支援薬局の取組でお世話になってきた。また、新たな取組テーマの「暮らしの備え」でも薬の備蓄の視点を取り入れることにお力添えをいただいた。

(瀬戸委員)

「暮らしの備え」に関することで報告。災害時の対策として、横浜市・横浜薬科大学・横浜市薬剤師会でモバイルファーマシーの協定を結んでいるが、先日実際に被災地の能登で活動をした。

これまでも訓練はしていたが、実際に被災地で活動することで、また課題が見つかった。その辺りについても引き続き取り組んでいきたい。

この部会は非常に勉強になった。様々なデータを用いて、横浜市の特徴や課題が見えてきたのではないかと思う。

誰も取り残さない健康支援は前期計画に引き続き大切だと思う。医療につながっているかたにはアプローチはできるが、無関心な人にアプローチするのがとても難しく課題である。

引き続き3期でも薬剤師会として貢献できることに取り組んでいく

(事務局)

田口委員お願いします。健康横浜21推進会議の副会長として、親の会議の進行でも御尽力いただいております、親の会議と部会との橋渡しをしていただいた。引き続き、推進会議の中での唯一の学識としてよろしく申し上げます。

(田口委員)

慶応義塾大学に着任してすぐにこちらの会議に参加するようになった。横浜市を知るところから始まり、学ぶことが多かった。

良かったこと2点。報告書の7ページにある体系図が大変分かりやすく気に入っている。保健計画は各事業を行う上で足場のようなものであり大切である。

10の視点についても、近年、社会的に重視されていることが網羅されており、良いと思った。現在横浜市の栄区と共に食環境づくりについて協働しているが、早速この10の視点を確認しながら取り組んでいる

また、働き世代の取組について、職場を通じた活動について重点をおかれたのは良かった。特に中小企業については、働き手の健康に関してまだまだ行き届いていない部分も多いと思っている。

これからも計画を共に推進する立場として尽力したい。

(事務局)

土屋委員お願いします。健康寿命の上位におられる静岡県の健康増進計画を策定してこられた。横浜市のことを客観的に見つつ、国の動きなどもいち早く押さえておられる立場でのご助言をいただいた。

(土屋委員)

静岡県の人口と横浜市の人口はとても近い。横浜市健康増進計画は第1期からとてもしっかり作られていると思っていた。

良いと思ったところ2点。一点目は、暮らしの備えを入れたのはすごい。

二点目は、この計画を作るにあたって、横浜市という大きな組織の庁内連携。最も庁内連携は大変だったと思う。

横浜市健康増進計画はトップランナーだと思う。これからも頑張ってもらいたい。

(事務局)

二宮委員お願いします。前任の佐藤委員と共に、歯・口腔が全身の健康にとっていかに大切かを教えていただき、ライフコースアプローチの打ち出しにもお力添えをいただいた。

(二宮委員)

佐藤委員から引き続きお世話になった。市職員、各委員、各団体の尽力で良い計画ができた。あとはこの計画をどう実行していくかが重要。

歯科医師会では、まずは歯科医師に対して知ってもらうにはどうすればよいかを考えている。その上で、診療に生かしたり、講演等で周知してもらえると影響力があると思う。

市に期待するのは、計画を知らない市民が多いことを認識し、若年層に向けてはSNS等の活用、高齢者に向けては紙媒体の活用、または企業との連携等と、多くの手段を使って周知にも力を入れることである。

(事務局)

長谷川委員お願いします。第1期計画の時から長きに渡り共に歩んでくださり、非常に心強い存在だった。近年では、糖尿病の重症化予防についても御尽力いただいていた。

(長谷川委員)

第1期中間評価のあたりから関わってきた。その頃は目標に対する指標の設定が、後付けだったりすることもあったが、今回はデータを重視した政策立案ということで、計画時から評価にどのデータを使用するのかを設定されていて、とても整理されたと思う。

これからの世の中を見据えて、「誰も取り残さない」という無関心層へのアプローチについて今回の計画にしっかりと組み込まれたのが素晴らしいと思っている。

誰も取り残さずに、自然と健康になる仕組みづくり、食環境づくりについて、関係団体や皆様とさらに考えていきたい。

また、腰痛の問題を取り上げたのも大きな変化だと感じた。関係団体としても、課題に対してどのように取り組むのか考えていく。

本日、横浜市フレイル予防イベントの「フレ！フレ！フレイル予防！」という、イオン天王町ショッピングセンターで行われたものに栄養士会として参加してきた。数社企業も参加していたが、最新の機器等を使って人を集めることができていた。今回は高齢者向けのイベントだったが、企業と協働する大切さを目の当たりにした。

(事務局)

村山委員お願いします。ナッジやソーシャルキャピタルについてお知恵をいただくとともに、地域人材の育成にもお力添えいただいた。

(村山委員)

様々な自治体の計画に委員として関わっているが、ここまでデータを提示して計画を立てている自治体は見たことがない。

また、取組を推進する10の視点には時代の流れを反映させた言葉をふんだんに入れていただいた。公衆衛生の第一線を走る計画に携われたと思っている。

横浜市は日頃から様々なことにチャレンジしており、計画にもそれが反映されている。

「つながりと健康」については、はっきりと答えを出しづらい領域。これでよい、と断言できないことも多かった。1項目、2項目で評価するということが難しいため、評価する時には指標のみならず、多面的にみていくことが大切

健康無関心層にもいろいろな背景の方がいる。行政だけでなく各関係団体が協力して計画を推進することが必要。計画の中で、各関係団体から一言書いていただいている部分があるが、良いことだと思う。

(事務局)

最後に水谷部会長お願いします。前任の豊福先生から引き継いでいただいたが、元々は大学の公衆衛生学教室で研究者としてご活躍だったというご経歴であることから、的確で有益なご助言をいただけたこと、いつも楽しく打合せをさせていただけたことにも大変助けられた。

(水谷部会長)

昨年7月から引き継いだ。縁があつて横浜市医師会に来て、ここで公衆衛生を研究していたことが役に立つとは思っていなかったが嬉しかった。

大学の研究室で公衆衛生の研究をしていた時は、健康日本21の第1期が始まった頃だった。市の職員にデータを持って行って、計画を検討したのを覚えている。

当時の恩師が退官したため、会いに行ったが、公衆衛生の仕事は作物を育てるのと同じ、と話していた。種をまく人、育てる人、収穫する人がいる。

私は最初に山梨で種をまいた。そして、ここでまた携わることが出来て嬉しい。

ずっと関わり続けることはないかもしれないが、その時その時関わっている皆様の力で出来ているのだと実感した。

今回のこの冊子は、これを見れば横浜市の健康のことがよく分かるため、気に入っている。

今回の計画で取り上げた「誰も取り残さない」について。日本はとても良い国で、

	<p>優しい国だと思う。ただ、稲を刈るのをこれまで通り人力でやっていくことができない時代に突入している。</p> <p>一人一人のあらゆる担い手の手をどこまで伸ばせるかを考えると同時に、市民としても限りある資源を大切に使う意識を持たないといけない。</p> <p>(事務局)</p> <p>令和5年度の市民意識調査の数値を確定版として冊子の印刷をしたいと思っている。これからも計画の推進を見守っていただき、お力添えいただきたいと思っている。</p> <p>これにて閉会とする。</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 委員名簿</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱</p> <p>資料3-1 第3期健康横浜21の策定状況について</p> <p>資料3-2 第3期健康横浜21原案 冊子</p> <p>資料3-3 第3期健康横浜21原案 概要版</p> <p>資料4 第3期健康横浜21 指標・目標値 一覧表(案)</p> <p>資料5 第3期健康横浜21の評価基準の考え方について</p> <p>資料6 よこはま健康アクション[R6-R11]リーフレット(案)</p>